

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

台東区立忍岡中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	- 言葉の特徴や使い方に関すること。 - 漢字を正しく読んだり書いたりすること。 - 話の内容を捉え、自分の考えと理由などの伝えたいことを工夫して表現すること。	- 熟語の成り立ちや敬語など、語句・文法の基礎を正しく理解する力。 - 漢字を正しく読んだり書いたりする力。 - 自分の思いや考えを表現する力。	- 言葉の仕組み、文法、語彙について、ポイントを押さえて指導する。 - 毎時間の授業の初めに小テストを行い、漢字の基礎力を定着させる指導を行い、間違いやすい漢字のポイントを繰り返し確認する。 - 自分の考えや理由などの伝えたいことを、5～10行程度の文章でまとめる機会を単元ごとに設定する。
2年	- 自分の考えや根拠が明確になるように、構成を考えて書くこと。 - 話の内容を正しく捉え、自分の考えをまとめること。 - 漢字を正しく読んだり書いたりすること。 - 古典的な文章において、歴史的仮名遣いやリズムに親しみながら文章の内容を把握すること。	- 読み取った内容を明確にし、2段落構成で文章を書く力。 「読む」ことにおいて、全体と部分の関係に注目しながら内容を捉える力。 - 第1学年までに学習した常用漢字に加え、小学校を含む学年別配当漢字を正しく書く力。 - 歴史的仮名遣いの読み書きや音読のリズムに慣れ親しみながら必要な情報を読み取る力。	- ICT機器や板書を活用しながら、文章の内容を視覚的に整理し、書くことにつなげる指導を行う。 - 説明的文章を中心に、各段落の役割から筆者の意見を捉え、自分の考えをまとめる指導を行う。 - 定期的に漢検4級相当の模擬テストを行い、漢字の基礎力を定着させる指導を行う。 - 古文を繰り返し音読させることで、単語の意味や内容のつながりが明らかになるよう指導する。
3年	- 漢字を正しく読んだり書いたりすること。 - 読み手の立場に立って文章を整え、自分の考えが分かりやすく伝わるよう工夫して書くこと。 - 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。	- 漢字を正しく読んだり書いたりする力。 「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめ、考えが分かりやすく伝わる表現を工夫する力。 「読むこと」において、根拠を明確にして読みながら、文章の構成や論理の展開の仕方などを捉える力。	- 毎時間の授業の初めに小テストを行い、間違いやすい漢字のポイントを繰り返し確認する。 200字程度で、様々な目的を設定して書いたり文章を読んで自分の考えや理由などの伝えたいこと書いたりする機会を単元ごとに設定する。 - 文章の中で意見と根拠、具体と抽象がどのように関連付けられているかに注目して読むよう指導する。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

台東区立忍岡中学校

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	・既習事項の基礎的な知識が定着していない。 ・定着するまで学習できていない。	・知識や技能、思考力、判断力、表現力等を身に付けるために、自らの学習を調整しながら学ぶ力。	・授業中に学習したことを繰り返し復習したり、活用したりする機会を設ける。具体的には、レポートやワークを活用する。
2年	・説明する等思考力を問われる問題での無回答率が高い。 ・白地図や図を使って表現するレポート課題に苦手意識が見られる。	・理解していることを自ら図や言葉を使って表現する力。	・毎時間の振り返りを文章で記述することで、学んだことを自分の言葉で表現する力を培う。 ・レポート課題の内容や評価規準を明確にするとともに例示をし、取り掛かりやすくする。 ・机間指導を積極的に行い、生徒の思考や表現のサポートをする。
3年	・資料を活用したり考察したりする力が身に付いていない。 ・資料から読み取ったことをもとに思考することに慣れていない。	・資料を活用して考察する力。	・授業中に資料を活用する課題を積極的に取り入れ、多様な資料を読む機会を設ける。 ・資料を読み取るポイントや考察のポイントを伝えていくとともに、資料を活用するグループワークを行うことで、多様な資料の読み取りや多面的・多角的な視点からの思考を促すようにする。

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

台東区立忍岡中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	・基礎的な内容の定着に向けて、繰り返し取り組む習慣が十分に身に付いていないこと。 ・自分の考えを言葉で説明する力が十分に育っていないこと。	・主体的に学習に取り組む態度及び粘り強く課題に向き合う力。 ・基礎的な知識・技能を確実に身につける学習習慣。 ・論理的に思考し、自分の考えを他者に伝える表現力。 ・数学的な見方・考え方を言語化する力。	・ドリルやICT教材を活用し、日常的な学習習慣を定着させる。 ・小テストや振り返り活動を定期的に行い、達成感と継続意欲を高める。 ・ペアやグループでの説明活動を取り入れ、言語化の機会を増やす。 ・ノートや発表を通じて「言葉で説明する力」の育成を図る。
2年	・基礎的な知識・技能が十分に理解・定着していないこと。 ・文字式や式の変形、図形の性質など、抽象的な内容への理解が浅く、数学的に説明することに苦手意識があること。	・課題に対して、粘り強く取り組み、自己の学習を調整しようとする態度。 ・数学的な用語や記号を正確に使いながら、考えを他者に伝える表現力。	・ワークや小テストを行ったあとに振り返り活動を行い、理解の定着と自己評価力の向上を図る。 ・ペア学習やグループ活動を通して、生徒同士で教え合い、数学的表現を使って説明する場面を多く設ける。
3年	・数学的な表現を用いて説明すること。	・図、表、式、グラフ、数学の用語・記号などの数学的な表現方法のよさを意識して、意欲的に、自分なりの表現方法で筋道を立てて分かりやすく説明し伝え合う力。	・論理的な思考力や表現力を必要とする問題では、何を問われているかを確認するなど、問題を丁寧に扱い、考えさせる授業を行う。 ・生徒同士で自分の考えを発表する時間を設ける。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

台東区立忍岡中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	- 文章や図から情報を抜き出し、得た情報を基に問題を解くこと。 - 授業で学んだ用語を理解し、別の用語との関連性を見出すこと。 - 授業で学んだことを踏まえて、科学現象を考えること。	- 文章や図から必要な情報を読み取る力。 - 用語と用語の関連性を意識し、科学現象の連続性を見出す力。 - 得た情報を基に、身近な科学現象について自分の考えを文章で表現する力。	- 授業内容の振り返りとして、文章や図から情報を読み取る問題に取り組む。 - 用語の関係性を、図を用いて視覚的に理解し、自分で整理できるようにする。 - 科学現象について考える時間を設け、自らの考えを文章で表現する。
2年	- 文章や表、グラフから情報を抜き出し、得た情報を基に問題を解くこと。 - 実験結果を基に考え、論理的に分析すること。 - 学習した内容を基に、身近な科学現象に関する課題に取り組み、課題に対する自分の考えを表現すること。	- 文章や表、グラフから情報を読み取る力。 - 実験考察や論述問題などで、科学現象を論理的に思考し自分の考えを表現する力。 - 学習した内容を基に、日常生活で見られる科学現象を考え、探究する力。	- 授業内容の振り返りとして、文章や表、グラフから情報を読み取る問題に取り組む。 - 論理的な思考力を伸ばすために、実験の考察に取り組んだり、科学現象を自分の言葉で表現したりする。 - 学習する内容と日常的な科学現象と結び付けられる授業展開を行う。
3年	- 課題に対し、仮説を持ち、解決する方法を考え、課題を解決し、その過程を文章で表現できるようにすること。 - 抽象的な内容を授業内容からイメージし、常に意欲的に学習に取り組むこと。 - 学習した内容を基に、主体的に日常生活の科学現象を考えられるようにすること。	- 化学実験や物理実験において、課題を明確にし、その解決方法の実験より、データを分析し、課題解決を文章で表現できる力。 - 遺伝の仕組みや地球の外で起きていることを想像する力。 - 日常生活の科学現象を題材にし、興味や疑問をもったことを解決するために既習事項を役立てることができる力。	- 実験に関する考え方を明確にし、様々な考えを発表し、そこから新たな発見をもち、自分の考えをまとめる。 - 具体的なイメージがもてるようにICT機器を活用するなど教材の工夫を行い、主体的に学習に取り組める環境をつくる。 - 他者と協力することで、科学的思考を高め、「分かった」という達成感を与えられる指導の工夫を行う。

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

台東区立忍岡中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
1年	・基礎的な文字や単語を聞くこと及び読むこと。 ・身近な事柄について英文を書くこと。 ・英語の質問を聞き取ること及びそれに答えること。	・音と文字をつなげる認識。 ・日常的な行動を表すことができるようになるための基礎的な語彙力。 ・日常的な行動や、人やものの特徴に関して質問したり、答えたりすることができる力。	・書き込み形式の教材でアルファベットの書き方を定着できるようにする。 ・授業での帯活動として音と文字のつながりの学習を行い、音の足し算の定着を図り、自分で読み方を推測できるようにする。 ・授業における語彙学習やドリルを家庭学習とつなげ基礎的な表現の学習を定着できるようにする。 ・ペア活動を通して口頭での学習を行うとともに、ドリルで文字による確認を行う。
2年	・基礎的な語彙の習得。 ・身近な事柄について、感想や周辺の情報を加えて英文を書いて伝えること。 ・英語の質問を聞き取ること・読み取ること、及びそれに答えること。	・語彙力の伸長。 ・英語の語順を正しく用いて表現できる力。また、その中の一部の情報を接続詞や不定詞などを用いて詳しく伝える力。 ・英語の質問に、正しく応答する力。	・口頭活動から筆記活動を連動して行う。 ・表現活動や英作文を定期的に行い、英語の語順を身に付けずことができるようになる。 ・口頭試問及び、読解から英語の質問に答える機会を毎回の授業で取り入れる。
3年	・必要な語彙の習得。 ・表現力の伸長。 ・英語の質問を聞き取ること・読み取ること、及びそれに答えること。 ・その状況にあった応答や、自分の考えを瞬時に表現すること。	・語彙力の伸長。 ・自ら発信することのできる力。 ・英語の質問に、正しく応答する力。 ・応答に自分の考え等を付け加えるなど、即興で表現する力。	・語彙の活動を行い、家庭学習と連動する。 ・表現活動や英作文を定期的に行い、英語の語順を身に付けることができるようになる。 ・口頭試問及び、読解から英語の質問に答える機会を毎回の授業で取り入れる。 ・常に「あいづち」や、「プラスα」を意識させ、会話を一往復で終わらせないようにする。